仙台育英学園
同窓会々報

発行所　仙台育英学園同窓会
〒983-0045 仙台市宮城野区宮城野二丁目4-1
TEL 022-256-4141
編集　仙台育英学園同窓会事務局
発行人
印刷所
㈱トーヨープリントセールス
TEL 022-225-8771

相互の切磋琢磨に期待

仙台育英学園同窓会
会長　小坂信雄

母校、仙台育英学園の栄えある創立百周年もいよいよ二年後に迎えることとなりましたが、同窓諸兄姉各位にはご壮健にお過ごしのことと存じます。

皆様方の母校愛に支えられまして同窓会もこの一年順調な運営によって活動を続けてまいりましたが、本年四月から新しく体制を整えることに深く敬意を表します。

母校仙台育英学園も、永年にわたる宿願の秀光中学校を平成八年に開設し、以来着々と周囲の期待に応えて教育の成果を挙げてまいりましたが、本年四月から新しく体制を整えて『仙台育英学園秀光中等教育学校』の名称のもとに、社会の大きな期待を担って中高六年の一貫教育の船出をいたしました。

これによって母校は、これまでの仙台育英学園高等学校と、仙台育英学園秀光中等教育学校が相互に切磋琢磨しあって教育効果の向上に努力されるものと大いに期待いたしたいと存じます。

また、仙台育英学園高等学校には全日制課程のほか、通信制課程、単位制コースも併設され、勤労の傍ら勉学に励んでいる生徒もおります。

在校の後輩諸君は、全国的にも数少ないすばらしく充実した教育環境の中で、加藤昭学園長先生、加藤雄彦校長先生はじめ教育に熱心な先生方のご指導により学業、スポーツ活動、文化活動にすばらしい成績を挙げておることは全国各地で活躍している六万余の同窓生の誇りであります。

今年三月の卒業生の進路は、大学進学者は七百五十余、その他の進学者六百余名、就職者二百余名で現役卒業生の進路では県下でトップクラスの成績であります。

とくに就職については、担当の先生方が同窓生や保護者の企業をまわり採用を懇願した努力が報いられ、不況の最中にもかかわらずほとんどの生徒が就職の機会に恵まれたことに感謝申し上げるとともに、今年度もなお一層のご協力をお願いいたします。

また、学園の現状はご承知のとおり少子化時代の渦に巻き込まれ毎年学園の入学生が減少し経営が圧迫されております。

この対策では学園が一丸となって教育効果の向上を計り学園への関心を広く啓蒙いたしておりますので各位の周囲におられる方々に学園の教育の様子をご説明いただきお薦めいただくようお願いいたします。

本会の活動としては、本年度は母校創立百周年についての事業等を中心に考えておりますが、学園は不況の風が吹く中で行事・事業などは質素に行い教育の充実等に力を傾注される意向なので、本会としてもこの趣旨に沿って計画を検討中です。

また、本会の運営問題でも再考すべき点があるので企画役員会などで審議し母校の発展とともに、本会の円滑な運営を計る所存から各位の一層のご協力をお願いいたします。

最後に、本会に種々のご教導をいただいている学園長、校長両先生、教職員の方々に感謝の意を表しあげます。

同窓諸兄姉各位におかれても、健康に留意されそれぞれの道で一層ご活躍されることを心から祈念申し上げます。

ふたつの学校

秀光中等教育学校
仙台育英学園高等学校
校長　加藤雄彦

仙台育英学園秀光中学校は、今年度から学校教育法第一条に規定されている中等教育学校として生まれ変わりました。全国では十番目、東北地方では初めての中高一貫校です。「秀光」とは世の中で非常にすぐれて、人の心に明るさを感じさせる精神力を意味します。九十八年前に創立者加藤利吉先生が、「至誠」「質実剛健」「自治進取」を建学精神として育英塾を創られた時に思い描いていた理想の中等教育が、ようやく現実のものとなったのです。

秀光の一・二期生が六年間の学園生活で残してくれた数々の成果と難関大学への多数合格の実績を、宮城県、東北地方の小学生やその保護者にわざわざ首都圏の中高一貫校を目指さなくても、同等の、あるいはそれ以上の高度な教育を受けられる学校が地元に存在するのだということを知っていただきたいと願っています。会員の皆さんにも、秀光中等教育学校のことを知り合いの方にご披露してくだされば、たいへん助かります。

秀光中等教育学校では教育のテーマに「ランゲージ&ミュージック」を掲げています。二十一世紀を生きる生徒たちには、非常にすぐれた知性と感性を備えた紳士・淑女に育ち、将来、多くの人々の心に明るい希望をもたせられる能力と可能性を期待しています。さらに、創立者加藤利吉先生の戦争体験から芽生えた「グローバリスト」育成への思いも大切にしています。この思いを実現するために、実践的な英語の習得と世界の人々とのつながりを可能にできる音楽教育に力をいれています。秀光では第一学年から全員が管弦楽器に挑戦していますが、その成果を発表する場として海外のオーケストラとのジョイントコンサートもおこなっています。世界で活動しているプロの演奏家との練習や合奏という得がたい体験を通じて、生徒たちは肌で国際感覚とその道の専門家が持つパワーを感じとっていくことと信じています。

第三学年全員がヨーロッパを訪れる「ユーロスクール」では現地の教会で手作りのコンサートを開くのですが、町の人々にお誘いのチラシを配ることから自分たちの手でおこないます。知らない国の知らない町にいって、自らが交渉していかなければならない体験こそ、秀光生の潜在的な可能性を顕在化させ、高めていく良い機会だと思っています。

仙台育英学園はこの新しい中等教育学校と戦後、改編された高等学校を持つ「オールド&ニュー」な総合学園に発展してきましたが、ここまで来るにあたって多くの同窓会会員の皆さんからいただいた激励を忘れずに今後とも競争的環境のなかで努力を惜しまず邁進していきたいと考えております。本学園の最大の特徴は創立者加藤利吉先生の残された「至誠力行」という言葉に集約されていると私は思っています。いかなる時代、いかなる状況においても会津人が持つ不撓不屈の精神こそがこの学園を今後とも栄えさせていくことでしょう。

平成15年度　第50回宮城県高等学校総合体育大会
戦績報告

☆団体種目
優勝　硬式野球　剣道男子　ボクシング　なぎなた　ラグビー　軟式野球　少林寺拳法　卓球男子　剣道女子　ライフル射撃男子
準優勝　秀光中等教育学校　卓球女子　レスリング　ライフル射撃女子　ソフトテニス
第三位　陸上競技女子　バレーボール女子　フェンシング

☆個人種目
優勝
陸上
男子　一五〇〇〇〇m　サムエル・ワンジル
女子　八〇〇〇〇m　サムエル・ワンジル
一五〇〇〇〇m　斉藤　梓
三〇〇〇〇m　ミリセント・カリウキ
卓球　男子シングルス　下村　茜
男子ダブルス　水野　裕哉
剣道　菅原　康敦
柔道　佐藤　弘
男子　六〇kg　高橋　正組
六六kg　大立目　直輝
七三kg　佐々木　比呂
一〇〇kg　永塚　太郎
ボクシング　モスキート級　青木　竜登
フェザー級　伊藤　峻
ライトウエルター級　長野　宏行
試合競技　松田　克士
ライトミドル級　松村　優子
演技競技　松田　ひろ
なぎなた　六九kg　金成　勇気
七六kg　ジョルディ・ロディリゲス
八五kg　森　真之介
レスリング　一年生の部　星　和志
女子　一年生の部　黒滝　一條　作
ビームライフル　男子　初段の部　加藤　理
女子　二段以上の部　松川　磐
少林寺拳法　単独演武の部　山口　翼
準優勝
陸上
男子三〇〇〇〇m　伊藤　一行
五〇〇〇〇m　佐藤　秀和
女子八〇〇〇〇m　斉藤　佑
一五〇〇〇〇m　内藤　貴
三〇〇〇〇m　山谷　加奈
シングルス　柏原　孝子
男子ダブルス　宮原　敦
卓球　水野　郁
柔道　日佐　裕
男子八一kg　日藤　将
一九〇kg　当藤　栽人
一〇〇kg　強　組
フェンシング
剣道　男子エペ　早坂　優一
女子　渡　美子　也
ボクシング　ライトフライ級　折居　遠　恭
フライ級　高階　平
バンタム級　岩崎　悟
フェザー級　池ノ本　悟　和
ライトミドル級　松田　那　也
試合競技　松田　由　史
演技競技　慶　太
なぎなた　引地　高　麻琴　子
レスリング　五四kg　杉江　隆　晃
七六kg　生　聡　洋　平
一三〇kg　庄子　介　志
ビームライフル　男子　柿沼　宏　朗
一年生の部　平　春　平
エアライフル　女子　山下　香　茜
女子

㈱トーヨープリントセールス
TEL 022-225-8771

仙台育英学園議員団近況報告

仙台育英学園議員団会長
仙台育英学園同窓会副会長
仙台市議会議員
池田友信（昭36普卒）

今春の統一地方選に於いて御支援を賜りましたこと、議員団を代表し厚く御礼申し上げます。

現在本校卒業生の中で、宮城県議会議員に三名、仙台市議会議員に三名、名取市議会議員三名、塩釜市議会議員、多賀城市議会議員、蔵王町議会議員、各一名、報告されておられる方で十二名、確認されていない方を含めますと十六～七名おられます。私共議員団は、それぞれの自治体を越え、党派を越え、情報交換をする中で、母校の発展に取りくむと共に、協力を出来る範囲でそれぞれの中で活動を取りくんでおります。

母校の地域環境問題の改善として、宮城野校舎、多賀城校舎の近辺の道路改善、交通対策、雨水排水対策、仙石線等通学路対策、生徒の皆さんの通学環境をよりよくするため、学校側の意見を行政に反映すべく、それぞれ取りくみ成果を上げております。

又、本学園の建学の精神でもあります、社会奉仕運動として取りくんでおります、駅の清掃、荒浜海岸清掃、梅田川の河川清掃、サケの里親運動、ラブリバー梅田川フェスティバル活動、母校建設の発祥の地錦町公園の定期清掃、等々行政とのかかわる部分でそれぞれの議員がよりよく進めるべく取りくみ多くの成果を上げております。この事は、行政に働く本校卒業の職員の皆さんより、卒業生として大変誇りとしており、感謝をされております。是非このことは在校生の皆さんに伝えておきたいと常々思っております。

これからの地方分権の時代の中でますます地方自治の自主性、自立性を求められる中議員団は、お互いに連携し、情報交換する中で、母校仙台育英学園の発展と共に、お互いの自治体の発展をめざし、仙台育英の建学の精神を発揮し一致団結をして取りくまなければならないと考えます。皆様方の今後共、議員団に対しまして、ご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

「ありがとう、ライオンスピリッツ」

宮城県議会議員
大学みきお（昭44普卒）

同窓会会員の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのことお慶び申し上げます。

常日頃は、小坂信雄会長をはじめとして、母校の発展、会員相互の親睦のために、同窓会活動を支えて頂き、敬意を表させて頂きます。

また母校におかれましては加藤雄彦校長先生そして先生方のご指導のもと、後輩の皆さんの目ざましい活躍に大いなる喜びを覚えるものであります。

進学においては、セブンハンドレットクラブ（現役での七百名の大学合格）の教育目標の達成、就職においては、厳しい雇用環境の中で、百％に近い就職率の実績、スポーツでは甲子園で、明石球場（軟式全国優勝）で、師走の都大路で、花園で、国立でと、そして卓球、なぎなた、ライフル射撃に、ボクシングに、レスリングにと、あるいは大相撲への入門と、あまたの競技において全国レベルの成績を残されております。

そして、何よりも忘れてはならないのは、東北初の中高一貫教育校「秀光中等教育学校」の開校であります。

未来を切り開く気概と、日本の教育改革の先達たらんとする使命感にこれまた敬意を表します。

私は、昭和四十四年三月に母校を卒業後、二年間の浪人時代を経て、慶應義塾大学に進み、通常は四年で卒業のところを、「あせらず、ゆっくり、じっくり」と五年間学業に専念し、昭和五十年三月卒業いたしました。その後、平成三年四月の統一地方選挙において、仙台若林区から初当選をさせて頂き、六万余名の卒業生の第一号として、県議会議員にさせて頂きました。

途中、二期目での落選をはさんで、平成十一年にはお蔭様で返り咲きをはたし、今回、平成十五年四月には三期目の当選をさせて頂きました。

これもひとえに、会員の皆様のご理解とご支援の賜物と深く感謝をさせて頂いております。

長い人生は成功と失敗のくり返し、挫折を恐れるな、栄光に甘んじるなとは先人の戒めの言葉であります。私も、人後に落ちず、浪人と入学、当選と落選、まさに成功と失敗、挫折と栄光を経験いたしました。

逆境の自分を支えてくれたのは、友の心の暖かさと「負けるな、負けるな、負けるな」と教えて頂いた創立者、加藤利吉先生の会津見知らずの精神、そして、母校のライオンスピリッツでありました。

母校なかりせば、今日の自分はなく、自分の人生の節目節目には必ず、母校の存在がありました。

「仙台育英から早慶を目指す」という使命感と「仙台育英〇Bから県議会議員を」という励ましの中から自分の挑戦、チャレンジが生まれたものとも確信をしております。

今はただ、「ありがとう。仙台育英」、「ありがとう。ライオンスピリッツ」と申し上げるだけであります。

県議会においては、地域活性化、雇用対策特別委員長として、地域経済を活性化させ、雇用の拡大、創出を図るため、中小企業対策、地場産業対策、新産業の創出、起業の促進等について、政策提言をしております。

また、建設、企業委員会では、道路、河川、空港、港湾等の社会資本の基盤整備を図り、都市計画行政、土木建築行政の推進に向けて活動をいたしております。

二十一世紀は「環境と奉仕」の時代と言われるなか、ゴミを拾うことがゴミを捨てない意識を育てるという環境理解教育の一環として、毎年、七月には後輩の皆さん六〇〇名と一緒に、仙台市深沼海岸の清掃奉仕活動を行なっております。地元の皆さんからも「毎年よく来てくれるわよね」、「みきおちゃんの後輩は感心だ」とおほめの言葉も頂き、また昨年は十年間に亘る母校の清掃奉仕活動に対して、藤井仙台市長より感謝状も頂きました。

「仙台育英に学んでよかった。いい友に巡り合ってよかった。会員の皆様と同じ仙台育英〇Bでよかった」と改めて心の中で呟きながら、同窓会会員の皆様のますますのご活躍を祈らせて頂きます。

市民の目線から市政を見つめつつ

仙台市議会議員
渡辺公一（昭42普卒）

一、名前
渡辺公一（わたなべこういち）
二、卒業年度・所属クラブ
昭和四十二年度（昭和四十三年三月）普通科卒業。ブラスバンド部。
三、議員を志した動機と現在の活動
仙台育英在学中は政治に関わるなどと言うことは露程も考えていませんでした。むしろ、三年の時に交換留学生としてアメリカ（オレゴン州南部のメフォード市）で一年間過ごした生活体験が物凄く強烈で、今で言う外食産業に興味を持ち、日本に帰ったら外食産業、特にハンバーガーショップを自分でもやってみたいと言う気持ちが強かったことを覚えています。

帰国後の翌年（昭和四十四年）に大学生となり、外食産業への夢を持ちつつ平穏な学生生活を過ごしていた矢先、自分の大学にも学生運動の波が押し寄せ、それまで学生運動らしきものが無かったキャンパスが俄かに騒がしくなってきました。

当時の学生運動は新左翼系が指導する政治闘争が主流でしたので、バレーボール部の主将を務めていた私は、当然、キャンパスを守る立場から立ち上がり、政治闘争から学園を守ったこともありました。これが切っ掛けで学生運動に関わりを持つようになり、学内の矛盾に目を向けるようになりました。

大学当局と学生の関係、カリキュラムの問題、ゼミの問題などなど、私立にありがちな学長（理事長）の独裁的な大学運営を民主的なものにしなければと言う思いを全学集会を通じて訴え、それならば学生会を発足させようとの決議とともに、初代の副議長に祭り上げられ、顔ぶれを見てみれば大半が体育会系の仲間と言う、世間から見れば何とも不思議な学生会執行部が誕生しました。私達が目指したものは学内の矛盾であり、政治闘争には走らないと言うものでした。これが教授陣からも支持され、要求貫徹が意外とスムーズに実現されていったのが社会問題へ目を向けさせる要因だったと思います。

政治への興味はと言うと、十代のころからテレビの政治討論会を見るのが好きでしたが、国政への興味とは別に、地域社会の問題に興味を抱くようになり、その時の身近な政治家が県会議員として活躍していたものですから、昭和四十八年に卒業した後は、その議員の秘書として政治の世界に入り、昭和六十二年四月の市議選で初当選した後は、先輩でもある池田友信議員と同一会派に所属し今日まで活動を共にしています。

現在、五期目と言うこともあり議会内では正に中堅からベテランと言われる時期に差し掛かっており、これまで常任委員会及び特別委員会の委員長を歴任し、市政全般にわたって関わることは勿論、地域の方々からの要望に応えていくための活動をしています。併せて、地域社会においては各種団体の役職も持っていますので、正に市民の目線から市政を見つめ、発言することに努めています。

四、議員以外の役職
仙台市都市計画審議会委員、東仙台地区社会福祉協議会会長、東仙台文化振興会長、日本クロアチア友好協会仙台支部長など。

同窓会の皆様へ

仙台市議会議員
赤間次彦（昭50普卒）

同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝の事と心から、お慶び申し上げます。

この度、同窓会の小坂信雄会長より会報第四十八号に、原稿をとの、お話しがあり近況の報告と、四月に行われた地方統一選挙の御礼をと思い、紙面から申し訳ありませんが御礼と報告をさせて頂きます。お蔭様で今回で四期目の当選でありますが、現在の経済状況や山積する諸課題等により公務員の方々や、議員に対する市民の皆様の目が厳しくなっていることは当然でありそれに応える事が私の責務であります。これからもご指導の程宜しくお願い致します。さて同窓会の会報が回を重ねて四十八号になった事に対しまして小坂会長を初め関係者のこれまでのご労苦に心から敬意を表します。私は昭和四十七年四月に、母校の門をくぐり担任の先生は、三年間土生久雄先生でおおいに御迷惑をおかけしながらも級友にも恵まれ一日の遅刻や欠席をすることもなく三カ年皆勤賞を頂いて五十年三月に卒業しました。その後進学した地元の大学や現在の職場にも多くの同窓会の先輩の方々や仲間がおり力強い限りであります。また選挙の事で恐縮でありますが、私の選挙区でありますます宮城野区には同窓会の大先輩の池田友信市議や渡辺公一市議がおり選挙の時は本当に厳しいのですが、皆様のお陰で両先輩と一緒に当選させて頂き市議会の中での所属している会派は違いますが様々な事で目をかけて頂いて本当に感謝しています。又地元の岩切から後輩の庄子賢一君が県議に当選し、母校の議員団に新しい仲間が加わりこれからも今まで以上県議市議お互い協力しながら諸課題に取り組んで行きたいと思います。高校総体の時期や大学受験又就職の状況等、そしてやっぱりこの時期は夏の高校野球自然と母校の事が気になります。伝統ある母校仙台育英学園高等学校の更なる限りないご隆盛と同窓会の会員の皆様のご多幸を衷心よりご祈念申し上げ挨拶と致します。

夏の甲子園と先輩からの贈り物

塩釜市議会議員　嶺岸　淳一（昭41商卒）

初めに、過般行われました統一地方選挙において、同窓会会員の皆様方から心温まる多大なご支援を賜りました。ここに紙面をお借りしまして深く感謝を申し上げます。

今学生時代を振り返ります時、私には、母校での忘れえぬ思い出の一つとして、硬式野球部が昭和三十九年夏に出場した甲子園大会をあげることができます。前年度の初出場に続いた連続出場で、今度は、是が非でも甲子園で初勝利を果たし、全国に向け母校の校歌を高らかに歌うんだとみんなが心に誓い合い、そんな中、大阪に向けて仙台駅より出発したことが、昨日のように思い出されます。当時、吹奏楽部に入っていた私は、応援部隊として同行させていただきました。大阪での宿泊地は、先輩が理事長をしている社会教育施設「東光学園」でした。食事や身の回りのお世話等、滞在中は、東光学園関係者の皆様に大変良くしていただき、快適に過ごすことができました。

野球の試合は、白熱した戦いで、応援席も全員一丸となって体を振り、手をたたき、また大声を出し、楽器を鳴らしながら必死に応援しましたが、残念ながら試合は惜敗してしまいました。私達が陣取った一塁側、アルプススタンドでは、試合終了と同時に、人目もはばからず、誰もが目に涙し、額から流れ落ちる汗と一緒に顔がくしゃくしゃになったことが思い出されます。宿舎に帰る道々は、足取りが重く、みんな無言のままでしたが、夕食を終えた懇談会の席上でお話された、東光学園の理事長、先輩でもある木川田先生のお言葉が、今でも強く脳裏に残っています。

『試合に負けたことは現実だが、それ以上にお互いに友の勝利を信じ流した涙は、今後の君らの人生の中で、何のために、誰のために生かすのか、大事に自分自身の心の中で育てていただきたい。』

私は、現在塩竈市議会議員として、市民から負託を受け活動する場を与えられております。市民の幸福と地域の安全、安心して暮らせるまちづくりを目指すのは、議員として当然のことですが、私の座右の銘としている『心こそ、大切なれ』を信条に、弱い人の立場に立って考え、一人ひとりを大切にしながら光の届かない人々に少しでも手を差し伸べることができる政治家を目指すよう心掛けたいと考えております。

その考えの起点になっているのは、あの暑い夏の甲子園での思い出と東光学園の木川田先生がお話しされた言葉との出会いであり、今ここに深く感謝を申し上げるものであります。

結びになりましたが、我が母校が今後ますます発展されますとともに、校長先生をはじめ学校関係者の皆様方、並びに同窓会会員の皆様方のご健勝とご多幸を心よりお祈りいたしております。

政治へのきっかけと現在の活動

蔵王町議会議員　村上　英人（昭45普卒）

同窓会の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。それと共に今春の統一地方選において仙台育英議員団又、新人で見事当選されましたOBの皆様に心よりお慶び申し上げます。

私は、仙台育英在学中はレスリング部に籍を置き阿部勲先生にご指導を頂き多くの思い出と共に、昭和四十五年春、学び舎を後にしました。

上京し二年間観光学院にて観光事業一般を勉強し、仙台の観光開発の会社に入社、みやぎ蔵王えぼしスキー場の開発に従事して参りました。東京でのセールスは、旅行エージェント、JR、スポーツ店等を積極的に営業活動しました。

そして苦しく、辛い時思い出すのは部活で仙台愛宕神社の階段を百段うさぎ飛びしたことでした。

あの夏の暑さ、冬の寒さを乗り越えた事を思い武士道の精神を学んだことを心のささえに頑張りました。平成2年のスキーシーズンには四十万人の入場者があり、蔵王町を観光と農業の町として大きく飛躍させる一助になったと思います。

スキー場に携わる事により多くの町民との出合い、対話を通じ国、県、町政への選挙応援をしてきました。そんな中で政治への興味を抱くようになり、生まれ故郷の蔵王町に、なにか貢献出来ればと思いました。それがきっかけで平成四年二月の町議選に出馬し初当選しました。現在、三期目で十九人の議員中、二番目に若いこともあり、「若さと行動力、情熱にもえる」をモットーに、町政に奮闘しています。

これまで常任委員会及び特別委員会の委員長を務め、町政全般に関わって参りました。

町民の声を議会に繁栄するために地域の皆さんと毎回対話式で議会報告を行なっています。

議員団の先輩が奉仕活動に取り組んでいる姿に感銘し、私も特別養護老人ホームの除草作業のボランティア等をしています。私の町議会の改選は来年二月です。議員団、同窓会の皆さんの御支援、御協力を賜わりますようよろしくお願い申し上げます。最後になりますが母校仙台育英学園高等学校の益々のご発展と同窓会会員の皆様の更なるご活躍をお祈り申し上げます。

古代都市多賀城の街づくりに想う

多賀城市議会議員　目黒　久（昭28中卒）

多賀城は、多賀城碑によれば神亀元年（西暦）七二四年に大野東人により創建され、十世紀半ば頃まで陸奥国の国府として、さらに、陸奥、出羽国を統轄する按察使が常駐し、奈良時代には鎮守府も併置されるなど古代東北経営の中枢的役割を果たした。

多賀城市では、昭和三十五年から埋蔵文化財の発掘調査が進められているが奈良時代から平安時代のこの時期にすでに地割りが行われ、荷馬車の時代に幹線は幅十二mの道路が造られ、水利として水路や溜池が造られ街が形成されていた。

これは今で言う都市計画であり、建物はすべて木造であるため火災防止も考えての配置であり、先人の生活の知恵であったと思う。誠に素晴らしいと感嘆するものである。

奈良の平城京などは実に驚くが、広場、道、火災時の緩衝地帯?幅七十二mの道路が造られていたそうである。

日本の都市計画法は大正八年に誕生したが、四年後の大正十二年に関東大震災が発生し東京は甚大な被害を被った。この復興のため政府が帝都復興院というものを設置し、後藤新平が総裁となって復興を進められたが本格的な日本の都市計画、あるいは都市改造はこれが最初なのかもしれない。

防災としての街づくりは都市計画のみでは不完全であるため、昭和二五年には建築基準法が制定され土地・建築を一体とした土地利用、即ち、火災、地震、水害等あらゆる災害から守られるような街づくりの制度が発足し、地方都市にも適用されるようになったものである。その後、日本経済の発展と共に社会資本の充実、生活水準の向上がみられた。しかし、道路一つとってみても産業の振興、物資の流通、商業、業務用、通勤、観光等々全て車社会であり道路の重要性、公共性が強く求められるところであるが残念ながら整備の立ち遅れから交通事故の多発、さらに運転マナー欠如による事故、その後は消防救急車の世話と言うパターンが非常に多いと感じている。

これからの街づくりに対する取り組み方としては、我々市民が如何に都市化しても住民の生命、身体、財産の保全には限界があるので関係行政機関への積極的な働きかけを行い市民が安心して生活できるよう努力しても らうことが大切であり先人に叱られないよう災害に強い街づくりに小職も大いに努力しなければならないと感じているものである。

高校総体の思い出と心に刻んだ精神

宮城県議会議員　庄子　賢一（昭56普卒）

私が仙台育英学園高等学校の門をくぐったのは、昭和五十三年の四月のことです。新しく始まる高校生活に対して期待と不安が入り混じった、何とも言えない緊張感で一杯だったことを昨日のように思い出します。なかでも私の地域には小学校も中学校もそれぞれ一校しか無かった為、九年間の学校生活はいつも同じ顔ぶれだったものですから、仙台市内はもとより石巻や小牛田、岩沼等から入学してきた同期の生徒との出会いは、まさしく未知との遭遇ともいうべき新しい出会いだったと記憶しています。

その後の高校生活は毎日がスリルとサスペンス（?）に満ちた、それはそれは楽しいものでした。

大変に怖い先輩とその何倍も怖い先生達に怒られたり、学生食堂での黄色カレー（今でもあるのでしょうか）争奪戦を展開したり、北海道での修学旅行で友人と深夜まで語り合ったりと、何年たっても忘れられないことばかりです。もちろん勉強したことも少しは覚えていますが・・・

なかでも一番の思いでは何といっても部活動です。軟式テニス部に所属したのですがこれがかなり厳しい練習で、五階建ての階段を走ったりうさぎ跳びをしながら二十往復したかと思えば、学校から茂ケ崎の大年寺までランニングして、寺の長い階段を十往復してまた学校へ戻ってくるという競争があったりと、今考えると「よくぞやれたものでした。しかしそんな激しい鍛練のお陰で、中学時代は泣かず飛ばずだった戦績の私が、三年時の高校総体の個人戦では三位に入賞しインターハイに出場することが出来たのです。この時の厳しい訓練と経験は今回の初めての選挙に大きく役立ったことは言うまでもありません。体力的にも精神的にも若いときに自分を思いっきりいじめておく事が、とても大切なことだと実感している昨今であり、「仙台育英生で良かった」と私は胸を張って言いたいのです。

企業を訪問したり地域を回ったりすると、仙台育英出身の方とお会いするときがありますが、そんな時は決まってこんなやり取りになります。「普通科?商業科?」「担任の先生は?」「部活は?」「誰々さん知ってる?」等々、一瞬にして高校時代に戻って話しが弾むのです。なにか同じ釜の飯を食べ戦場をくぐり抜けた、戦友に会っている気分なのですが、仙台育英出身と聞いただけでどうしてこうも親近感が増すのでしょうか。母校というのは何とも不思議なものだと思います。そして各界の要所要所で仙台育英の卒業生の皆さんが活躍され、第一人者として輝いているお姿に触れると、本当にうれしいものでこちらも励まされるのです。

今私たちを取り巻く社会は益々混迷の度を深め、まるで羅針盤を失った船のように不安定な航海を余儀なくされていますが、未来への希望と指針を明確に示すことが、今こそ政治に求められているリーダーシップだと思います。仙台育英学園で培いそして心に刻んだ精神（育英スピリッツ）を忘れずに、これからの人生を社会のために地域のために使っていこうと思っている昨今です。これからも仙台育英ＯＢとしての誇りを胸に一生懸命働いて参ります。

最後になりますが、この機会に校長先生はじめ恩師の先生方に心から感謝と御礼を申し上げさせて頂くとともに、在校生の皆さんが今後社会で大活躍されますことをお祈り申し上げ、一文とさせて頂きます。

お知らせ

◎同窓会総会のご案内

期日・十五年八月三十日(土)
時間・午後五時より総会
　　午後六時より懇親会
場所・パレスへいあん
会費・五千円

当日は、テレビや自転車・甲子園出場記念グッズ等が当たる空クジなしの抽選会がありますので、ぜひお誘い合わせの上、参加下さいますようご案内申し上げます。

勝海舟の「公共の政」を意識して

名取市議会議員　橋浦正人（昭37普卒）

私は現在、名取市議会議員をしている橋浦正人です。まだ一年生議員で心許無いことから私を支える糧に、海舟の「公共の政」をバックボーンにしています。海舟は、政治家としても有名で特異な思想家横井小楠が創造した「公共の政」という理論を精力的に実践しようとした人物であります。しかし、この小楠の理論に導かれた理念的ともいうべき幕藩制変革の政治路線を貫徹できなかったところに、「未完の政治家」としての不遇を囲う運命を見て取れます。

その変革理念を前提に、名取市の議決機関として議会構成員の議員の心構えは、如何にあるべきであろうか、反省を込め改めて考えてみたいと思います。

(1)住民全体の代表者：全て公務員は全体の奉仕者であって、一部の奉公者ではありません。憲法十五条のこの規定を私は、議員という公職に身を置く者の心構えの基本を謳ったものと理解し厳粛に受け止めております。私は、地域の利害に関連する問題について、名取市全体の立場と地域や住民の立場の板挟みになって悩み苦しんだり色々な事業の実施や施設の設置を廻って、地域住民の利害得失が絡んで重大な決断を迫られることがあります。そのような場合、私は、名取市全体の立場からの判断に立つべき議員として、勇気を持って住民全体の幸せを選ぶべきものと考えて対応しています。又、名取市全体に係る発展策、均衡ある福祉施策、適正な予算とその効率的執行、更に職員の厳正な執務の確保等々も、私の少ない経験からしても全て議員の「全体の奉仕者としての心構え」とその慧眼を持ってすれば容易に見通され、適切で妥当な知恵が見出されることは間違いありません。

(2)執行機関との対比：大統領制の組織原理が議会と執行機関の権限を明確に分かち合って相互に牽制し合う「対立の原理」を基本とする以上、議員は常に執行機関とは一歩離れていなければなりません。離れずに密着すれば議会、執行機関の二元的な仕組みは無用であり、有害となることから執行機関に近づき過ぎて一つになっては、批判も監視も適正な施策判断もできないのは当然で、議会の存在理由は無くなってしまいます。又、逆に議員が執行機関より離れ過ぎてもその役割が果たせなくなります。名取市の行政も議会と執行機関の両者の協同（車の両輪）で進められるのであって、離れ過ぎては議会の使命である正しい批判と監視は不可能であります。この原則が守らなければ行政は乱れ・歪められ・民主的で公平な運営が損なわれます。議員は、常に執行機関とは一歩離れ、二歩離れない姿勢が大事であることを肝に銘じて置かなければなりません。

(3)批判機能の発揮：議会は住民を代表して重要な事件を審議し、決定し、行政を批判、監視する機関である為、理由があれば批判、攻撃も、又、問題についての追求もいかに鋭くしてもよいが、あくまでも行政を合理的、効率的に行わせることが目的であることを自覚した態度でいなければなりません。議員が指摘した事項がその方向で改善され実行されなければ何にもならず、ただ批判のみに終わる一人芝居では能がないばかりか、議員多数に支持され執行部に共鳴させ実行させなければ、その甲斐が無いと言わなければなりません。従って、批判や攻撃は厳しさの中に暖かみのある言葉で批判し、執行機関の案が悪いのであれば、説得力のある実現可能な具体的代案を持って臨む心構えが必要であります。

(4)審議機能の向上：議会は、議決機関であって住民の立場に立って実質的な審議を尽くすことが使命・職責であります。審議の適否は、会期日数や審議日数の長短だけでは論じられず、会期の日数等はその時点における議会の構成や事件が抱える問題点の多寡や内容に左右されます。議会の審議に対する評価は、どのような高度な質疑や討論が濃密に行われたかによってなされるものであります。従って、重大な指摘事項がある筈なのに「異議なし、異議なし」で済ませたり、逆に住民の福祉とは直接関連のない議会の内部運営の問題や人事案件で紛糾して日数を費やすようでは、住民の信頼は得られません。それ故に議員に審議機能の向上が求められます。

(5)住民の代表意識の向上：議員が住民の代表者であるということは、とりもなおさず住民が考えていること、思い願っていることの全てを代表するということであります。住民と行政との橋渡しをすべき議員は、そうした声の全てを把握し、住民の心情を掴んでその心で考えることが大事であります。「大衆は大知」という言葉があるように、議員は常に住民の中に飛び込んで、住民の声や知恵を掴み、それを議員の声、心、知恵として代表する心構えが必要であります。住民と共に喜び、住民と共に涙する血の通った信頼される行政ができるかどうかは、このような議員の活動に待つところが極めて大きいと言わなければなりません。

(6)議員に求められる気概：名取市の議員は名取市における政治家で、常に地域の現状と問題点を考え、将来の在り方を踏まえて住民を指導すべき立場にあります。指導する為には、それなりの識見と信念を持つことが要求され、これを行政に、又、住民に訴えて説得しなければならない場合があります。その為に政治家に要求されるのが勇気と奮起、中でも勇気なくしては思い切って発言し、行政や住民に訴えて説得し指導することができません。私は地方政治における政治家たる名取市議会議員として、更に勇気を出し、更に奮起して職責を全うしていきたいと、再選を六か月後に控えて考える今日この頃であります。

もし海舟が普通の幕臣であったなら、将軍の「英断」で全てが解決された筈であります。しかし、彼は混迷する時代にあっても、自身の信念に基づき「公」を強く意識して行動した術に、私は議員として学ぶべきことの多さを痛感しております。

既に二十一世紀、ニューメディア時代が開幕しました。私はこの新時代が、より海舟流の時代になるのではと強く意識します。つまり、議員は既成概念を一掃した貪欲なほど未来を先取りする素養と行動性を身に纏い、行政と行本位の個性・独創性を確立して何よりもヒューマニズムに満ち溢れ、住民大衆の心を心とした新しい「政治」と「政治世界」の創造に挺身しなければならないと、私は考えます。それに従って心ある餘多の公務員達も政治家の胸奥に未来を拓く新しいエネルギーの灯が点灯されたことを歓迎し、襟を正して新しい道を共に拓き始めると、私は固く信じています。

地方政治、地方行政の「現場」に、そのような新しい独特の表情独特の感覚に満ちた独特の「素顔」が現れるならば、それは即ち、住民大衆の幸福以外の何物でもないのであります。私は、海舟の心を持って、その「素顔」作りに挑戦していきたいと、新たに誓うものであります。

最後に、母校仙台育英学園高等学校の益々のご発展を衷心よりご祈念申し上げて、結びといたします。

〔会員の皆様へ〕

※ご注意とお願い

同窓生諸兄姉のご家庭や勤務先に「同窓会のものですが、名簿作成のため、住所、勤務先を教えて下さい」との電話が数多くあるようですが、事務局で住所等をお聞きする場合は、同窓会事務局から電話した後、学校へ改めてお掛け頂くシステムと名簿変更ハガキ(会報に同封)のご利用を頂いてますのでご了承をお願い致します。

学園創立者 加藤利吉先生物語

≪第二回≫ あの船に乗って、外国に行きたい！ 世界を見たい！

明治三十四年三月に、利吉先生は東京学院を卒業しています。しかし、東京で三年間勉強するうちに、青年・加藤利吉先生の夢はさらに大きく広がりました。

「狭い日本にいてはだめだ。世界で一番広く使われている言葉の英語を身につけて、窮屈な日本を飛び出し、イギリスやアメリカに渡って世界のいろいろなことを学びたい」

そこで、神田正則英語学校に入学して英語の本格的な勉強を始めます。まさに現在の学園の精神、「国際理解」「グローバリゼーション」は、このとき利吉先生の胸に芽生えていたようです。正則英語学校は、明治三十七年（一九〇四年）に卒業しています。

学びながら子供達に英語を教えるように

神田正則英語学校でも利吉先生の才能は発揮され、英語の上達ぶりは群を抜いていたようです。

しかし、いっぽうでは炭百俵を売って得た資金は底をついてきました。そこで、利吉先生は住み込みで米屋で働きながら学校に通うようになりました。さらに子供達に英語を教えるようにも。教える子供の数はしだいに増えて、やがては塾のようなものへと成長していきました。

ヘンリーと出合い、横浜で塾を…

利吉先生がアメリカ人ヘンリーと出会ったのはしばらく後のこと。子供達に本格的な英語を教えたいと考え、利吉先生は外国人の教師を募集したのです。そこに応募してきたのがヘンリーでした。

利吉先生はヘンリーに交換条件を出しました。ヘンリーが利吉先生と塾の子供達にネイティブの英語を教える。そのかわり利吉先生がヘンリーに日本語や漢詩を教えるというもの。ヘンリーは利吉先生のこの申し出を快諾。二人三脚の日々が始まったのでした。

利吉先生はヘンリーとともに横浜にあるヘンリーの家で塾を開きました。利吉先生は生徒達に国語・漢文・数学を教え、ヘンリーは英語を教えました。もちろん利吉先生とヘンリーの二人も、ときに先生になり、生徒になって教え合いながら。

失意の利吉先生に届いた召集令状

天気の良い日には、カレン（ヘンリーの娘）とともに横浜港の埠頭を散歩することもありました。そんなとき、利吉の心は何となくときめくのでした。

荷揚げする外国船を指さして、

「あの船に乗って外国へ行きたい。世界の国々を見たい。世界中のいろいろなことを知りたい」…

『ほえろ！ライオン先生』（奥中惇夫著）には、利吉先生の横浜での楽しく充実した日々の様子が、このように描かれています。

しかし幸福な日々は長くは続きません。ヘンリーは父親の病気により、一家でアメリカに引き揚げることに。そして利吉先生には召集令状が届くことになるのです。時は明治三十七年（一九〇四年）、日露戦争が始まった年のことです。